

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2775502525		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	第二こうせい苑グループホーム		
所在地	八尾市中田3丁目54-26		
自己評価作成日	平成 27年 10月 20日	評価結果市町村受理日	平成 27年 12月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2775502525-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2775502525-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 11月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から10年以上が経過し、当時よりご入居の利用者様は重度化が進んでいますが、安心して生活できるよう家庭的な雰囲気大切に、常に利用者様に寄り添い思いをくみ取り、柔軟な対応ができるよう職員が一丸となって取り組んでいます。  
医療との連携が徹底しており、開設時から看取り介護の実践を多数経験し、また、より良い暮らしを提供できるよう、知識向上に向けて職員は日々研鑽しています。  
法人全体として、地域へより質の高いサービス提供を目指し、法人の各事業所が参加できる研修会や資格取得支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献する医療法人が利用者の声に応え開設したグループホームです。先代理事長の思いが、事業所の名前に込められ、その思いは今も引き継がれて実践され、地域から信頼を得ています。管理者や職員は、利用者に寄り添った介護を大切にしています。開設以来看取りの指針を掲げ、人生の最後を自分たちに託してもらうことへの感謝の気持ちでターミナルケアを実践しています。法人全体で事業を支えるシステムが充実しており、研修の機会も多くあります。美味しい食事利用者の大きな楽しみのひとつになっています。管理者は職員にも常に関心を寄せ、安心して働ける環境づくりに尽力し、職員もその思いに応え、チームワークの良さは、ホーム全体の和やかな雰囲気を創り出しています。  
「長い人生を頑張ってきた利用者一人ひとりが、今日は楽しかった、明日も楽しいただろうと思ってもらえるケア」を心がけながら職員が支えている利用者の暮らしは、明るく穏やかな毎日となっています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に事業所の理念を作ってフロア内の目につくところに掲げている。業務中でも度々目にする。意識づけを行っている。全体会議では理念の確認を行っている。	『「今までの生活を継続できるよう支援します」「常に笑顔で利用者様に寄り添ったケアを支援します」「地域と連携し安心・安全な生活を支援します」』の理念を掲げています。職員は理念をよく理解し、利用者に寄り添った支援を実践しています。 家族に送る通信に理念を掲載し、また、運営推進会議の中で理念を紹介する等、地域や家族に理念をより理解・支持してもらうように取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園児との交流や、理髪店やスーパー・お好み焼き店などに出かけて地域の一員として交流している。また、ボランティアの方も毎月来ていただいている。	地域との交流には積極的に取り組んでいます。ボランティアの訪問も多く、コーラス・大正琴・歌体操・フラダンス等の協力は、利用者の豊かな生活を支える大きな力になっています。 グループホームの存在も地域に定着し、通りすがりの人が認知症の相談に立ち寄ることもあります。また、職員のユニホームを見かけたら地域の方から声をかけてもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症に関する話をしたり、支援の方法や情報をお知らせしている。また、見学に来られた際に困っていることの相談に乗ったりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、利用者様、家族様、地域の方に参加していただき、様々な議題について報告や意見の交換を行っている。	運営推進会議は、地域の代表、市の職員、利用者及び家族の代表の参加を得て、2ヶ月に1回定期的に開催しています。内容も工夫して既に53回の開催を重ねた結果、ホームが地域に理解・支持され、地域との連携と協力が密になりました。会議はホームの状況を報告すると共に、毎回特別なテーマで情報を提供し、参加者から評価や意見を聞き、ホームの運営に活かしています。最近の特別テーマは、他県での誤薬・誤配膳の事故から学ぶこと、感染症対策、法人全体の研修計画と内容、利用者の医療的フォロー等です。外部評価の結果も報告しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>担当課の方とは常に連絡・相談できる環境にある。</p>	<p>市関係部署の担当者とは、いつでも相談できる関係が築けています。運営推進会議にも市の職員が参加しています。外部評価の結果や事故報告もできています。管理者は、介護保険事業者連絡協議会のグループホーム分科会の幹事で、市の担当者との関係も密です。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>繰り返し研修を受けることで身体拘束排除の意識づけを行っている。 「座ってください」等、言葉による拘束にも気を付けています。 玄関の施錠に関しては前の道路が抜け道になっているため、交通量が多く危険なため行っていない。</p>	<p>管理者は、身体拘束をしないケアの重要性を十分認識し、職員の研修、指導をしています。定例の全体会議では、身体拘束をしないケアについて話し合い、実践に取り組んでいます。法人全事業所職員研修会の身体拘束についての講師は、ホームの職員が担当しています。玄関は、現在ホーム前道路の交通量が多く、危険な状況で施錠しています。利用者の閉塞感を考え、利用者によっては介護計画書に日常的な外出を盛り込んで支援をしています。利用者が外出したい様子を察知したら、職員がさりげなく声掛けして付き添うなど、安全に配慮し、自由な暮らしの支援に努めています。</p>	<p>玄関の施錠はやむを得ない状況にありますが、利用者に閉塞感を与えないよう、引き続き安全で自由な暮らしを支援する工夫を重ねていくことが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止について認識しており、お互いがお互いを気遣う気持ちを持ち介助を行っている。些細なことを気づきと捉え、情報を共有することで虐待防止に努めている。働きやすい職場づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し毎年学んでいる。後見人制度を利用している利用者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づいて行い、ご理解・納得していただいた上で契約を結んでいます。加算等で利用料金が改正される時は、文章や口頭等で説明を行い、ご理解いただけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人や家族様とは常にコミュニケーションを大切にし、意見・希望を話せる雰囲気づくりを心掛けている。サービス計画書作成時に家族様の意見や希望を聞いている。公共機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。	管理者や職員は、利用者や家族との信頼関係を築くことで、率直な意見や要望を出してもらえと考え、コミュニケーションに努めています。利用者の生活が伝わる、写真を多く入れた機関誌の発刊も家族に喜ばれています。家族の面会時には、その都度声掛けして、利用者の状況を報告し、要望や意見を聞くようにしています。家族の代表には運営推進会議で意見を聞いています。年1回開催の家族交流会には、約8割の家族の参加が有り、意見や要望を聞く機会になっています。	家族の意見・要望を更に有効にするため、ホームとして一番確認したいテーマに絞り、家族交流会等家族の集まる機会にアンケートを実施されてはいかがでしょうか。 その際、ホームの取り組み状況での良いところ、評価できる点も同時に確認されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロアー会議では検討したい議題を前もって意見を書けるようにし、出された意見を検討しサービス向上につなげている。全体会議でも意見や提案などを伝える機会がある。</p>	<p>毎月開催されるフロアー会議は、勤務の都合で参加できない職員も、事前に書面で意見を出してもらい、全員の意見でサービスの向上に努めています。全体会議も毎月開催し、職員は自由に話し合い、サービスの向上や運営に活かすよう努めています。管理者は年2回、職員がセルフチェックシートでの自己評価後に、面談の機会を設け、悩みや課題等について聞いています。また、管理者は職員にも常に関心を寄せ、安心して働ける環境づくりに尽力しており、このような配慮が職員の士気を高めています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が専門職としての目標や充実感を持ち、業務に取り組めるよう研修や勉強会を通じて意識向上を図っている。                      働きやすい職場環境づくりに配慮し、職員の定着に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内における内部研修、事業所内での会議や勉強会を通じて職員のスキルアップを図っている。法人内で介護福祉士受験対策講座や14項目にわたる法人内部研修を設け職員の意識向上を図っている。</p> <p>事業所内では、職員間で利用者様の状況などの情報を共有し、介護技術の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>八尾市介護保険事業所連絡協議会のグループホーム分科会に加入し、他施設見学会や懇親会などに積極的に参加し情報収集・交換に努め交流を行っている。</p>		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>紹介者や家族様からの情報を基にし、コミュニケーションを密にとり、ご本人の思いをくみ取れるよう心を配っている。また、ご本人との会話の中から情報収集するように努めている。</p> <p>常に笑顔で接するよう努めている。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が不安に思っていることを何でも話せるような雰囲気づくりを心掛けています。 利用者様の状態に変化があったときは都度報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様の話を傾聴し、要望を尊重した上で、「その時」必要と思われる支援をご提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一方的に介護される人として見るのではなく、人生の大先輩から学ばせていただくと言う気持ちを常に持ち、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との外出や面会時にはいつもと違う顔が見られる。常に家族様と連携し、利用者様を共に支えていくよう心を砕いている。居室で家族様と食事をとられることもある。また、看取り時には家族が泊まることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b>                      本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族だけでなく友人・知人が訪ねてこられた時には、ご本人と一緒に歓迎している。                      近隣の施設から転居されてこられた方は時々訪ねていけるよう支援している。</p>	<p>「今までの生活を継続できるように支援します」を理念の一つに掲げ実践しています。ホームへ入居する前の施設から友達が訪問したり、こちらから施設に行く利用者もいます。ドライブの途中、馴染みの場所に立ち寄ることもあります。                      馴染みの友達からの昔ばなしから、利用者への理解が深まることもあり、職員は利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せることでケアの幅を広げることができ、家族や友人を通して多くを学んでいます。                      また、入居後の新たな馴染みの関係も大切にし、利用者同士の助け合いも尊重しています。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b>                      利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合う方同士が会話を楽しめるよう座席の位置に配慮している。                      居室にて過ごす時間を大切に考えながら孤立しないよう働きかけ、レク等で利用者同士がかかわりを持てるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても気軽に立ち寄って頂けるよう、また、困りごとなどの相談に乗れる関係を心掛けている。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中からや日々の様子から希望や意向を把握している。本人から訴えができない方については、その時の表情や様子から思いをくみ取るようにしている。	利用者一人ひとりの思い・希望等の情報収集については、入居時の事前面接で、本人・家族から聞き取り、記録しています。また、家族に本人像を書いています。家族が利用者を大切に思う気持ちも職員は共有して支援しています。 顔の見える記録を心がけ、日常の関わりの中での気づきや発見も記録に残し、日々の支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや医療機関からのサマリーのほか、家族様からの情報提供によりこれまでの生活歴や馴染みの暮らしを把握している。また、利用者様との会話の中からも情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアを念頭に置き、一人一人の生活のペースに合わせて一日の流れが決められている。 日々の生活を観察し、状態に変化がないか情報を共有して、いつもとは違う様子を見逃すことの無いように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のモニタリングと3ヶ月毎のカンファレンスにより職員間で現在の状態について検討している。また、本人や家族の意見を聞いて計画に反映させている。状態に大きな変化があればその都度カンファレンスを行うなどし、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画書は大阪認知症高齢者グループホーム協議会のサービス計画書の書式を活用し、「暮らしの状況」「心身の状況」を項目別に見つけ、日々の「生活の目標」「活動の目標」を定めています。介護計画書は、利用者・家族の希望を尊重しています。 モニタリングは毎月、居室担当者が行い、職員間で共有しています。 計画作成担当者は、「利用者のできることに注目し、本人や家族に喜んでもらえる介護計画書」を心がけて作成しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別援助記録・受診ノート・連絡ノート・排泄チェックシート等から状態の把握と、職員間の情報共有を行っている。</p> <p>ケアプランの毎日の実施項目を実施できていない場合はカンファレンスにて検討を行い、計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者や家族の要望や状態に変化があった時は、その都度相談し、最大限希望に添えるよう柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議にて地域で参加できる行事などの情報を頂いたり、定期的にボランティアさんに来ていただいて楽しいひと時を過ごしている。近隣の保育園児との交流を楽しみにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b>                      受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回かかりつけ医の往診を受けている。医師の指示や家族の希望にて皮膚科・眼科・精神科等を受診できるよう支援している。職員が付き添うこともある。歯科医や他科の訪問診療を受けたりもしている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医についての受診は、希望があれば可能です。眼科等入居前からのかかりつけ医に往診にきてもらっている利用者もあります。医療連携 24 時間オンコール体制を整えており、看護師が毎日健康チェックに訪問し、月2回は医師の往診があります。医療と福祉の連携による総合的なサービスを提供する法人の支援は、家族や職員の安心に繋がっています。</p>	
31		<p><b>○看護職との協働</b>                      介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制になっており、訪問看護師が月～土と毎日訪問してくれているので、利用者様の日々の様子や変化を伝え相談している。緊急時には夜間や休日にも対応でき、24時間オンコール体制になっている。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b>                      利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には利用者の心身の状態等を医療機関に情報提供している。入院期間中も病院関係者と連絡を取り、利用者の状態の把握に努めている。退院時には医療機関からの情報提供を依頼し、かかりつけ医とも連携している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「看取りに関する指針」を基に入居時に説明している。実際に重度化が予想される場合には、段階ごとに家族の意向を確認しながら方針を共有し、家族・医療・職員と連携し、本人・家族にとって望む終末期が送れるよう支援している。また、ターミナルケアについての研修に参加し、職員の知識向上にも取り組んでいる。看取りの実績は多くある。</p>	<p>開設以来、終末期を見据えた支援をしています。終末期の対応については、「看取りに関する指針」を作り入居時に説明しています。実際にターミナルケアが必要になった時には、改めて家族の意向を確認します。医師との協力関係が構築され、これまでも、利用者や家族の希望に応じて終末期の支援をしてきました。</p> <p>職員は、ホームでの看取りの経験で「人生の最期に関われる尊さ」「人生の最後を私たちに託してくれることへの感謝」等貴重なことを学び、日常のケアに活かしています。</p>	
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内や消防署などの研修に参加し、救命技術の習得に努めている。事業所内にはマニュアルを掲示している。全体会議では対応の確認を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、消防署立会や法人防災管理者の指示のもと、地震や火災等の災害場面を想定し避難訓練を行っている。また、夜間の災害時には近隣職員が駆けつける体制が取れている。	災害マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施しています。避難訓練は、特に夜間想定に力をいれています。 元消防署の職員が、法人全体の防災に関して、点検や避難の方法を職員に解りやすく浸透させています。 非常災害時の備蓄も一覧表を作成し準備しています。	
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩との意識を忘れず、一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけることの無いよう、声掛けを工夫している。特に排せつ介助時などにはプライバシーを損なわないよう配慮している。	管理者は、排泄・入浴介助、居室に入る時等、日常の中での利用者の尊厳に配慮したケアについて具体的に伝えています。また、接遇研修も実施し、利用者を尊重するケアの大切さを確認しています。 利用者の尊厳に配慮するケアのひとつとして、「利用者の身だしなみに気をつける」ことも職員間で確認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との日々の生活の中で、自己決定が可能な利用者様に対しては、話しやすい雰囲気を中心掛け、思いが伝えられない利用者様には表情や様子から思いをくみ取るようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務マニュアルや利用者様各々の一日の流れの予定はあるが、その日の体調や気分に沿って柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みの身だしなみやおしゃれを理解し、さりげなく季節に合った衣服と一緒に選べるよう配慮している。訪問美容や近隣の理髪店では本人の好みに沿えるよう依頼している。自己にてできない場合は本人の状態や季節に合った衣服を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>フロア内にある台所で、調理をしている様子や匂い・音を感じていただくことで、家庭的な雰囲気を感じていただき、また、食事に対して興味をもってもらえるよう支援している。行事食では季節感のある献立を提供している。職員と利用者が同じ食事を同じテーブルで楽しい雰囲気ではいただいている。</p>	<p>キッチンリビングと接しており、食材を切る音や匂いが漂い、利用者の五感を刺激しています。食事は3食ともホームで作っています。材料は業者から届けてもらっています。利用者の重度化に伴い、食事担当の専任職員を配置しました。 誕生日には利用者本人の好きなメニュー、正月のおせち料理、敬老祝賀会の特別メニュー等、様々な工夫で利用者に喜んでもらっています。 職員も全員、利用者と同じものを食べながら、さりげなくサポートしています。食事が美味しいこともホームの自慢の一つで、利用者から「美味しい」との声が聞こえ、和気あいあいとした食事風景となっています。</p>	
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取表にて1日の食事量や水分量を把握している。 医師の指示のもと水分制限や栄養補助剤の提供を行っている。それぞれの嚥下状態や咀嚼状態に合わせた食事形態を提供している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後・起床時・就寝時に口腔ケアを行って、口腔内の清潔と誤嚥性肺炎の予防に努めている。 利用者の能力に合わせて、見守り、一部介助・全介助で行っている。 義歯の方は毎日預かって洗浄している。</p>		
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表にてそれぞれの排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を支援している。 頻尿等に関しては医師に相談を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄を基本としています。特に排便については、重度の利用者も、一日1回はトイレに座ってもらっています。 管理者は職員に、オムツを使用しても、人としての尊厳を大切にすることを伝えています。</p>	
44		<p><b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、便剤に頼るのではなく、乳製品や便秘に良い食材を試したり、適度な運動や腹部マッサージも行い予防に努めている。看護師に相談し、指示を仰ぐこともある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴日は決まっているが、その日の体調に合わせて変更したりしている。 楽しみの時間と感じていただけるよう、ゆっくり時間を取り会話を楽しんだりしている。	入浴は、週3日～2日となっていますが、希望があれば毎日でも入浴は可能です。 入浴を好まない利用者には無理強せず、本人が入浴する気持ちになるよう働きかけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっておらず、各利用者の生活リズムに合わせて休息や安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬リストを個別にファイルし、目的や副作用について常に確認できるようにしている 薬の処方に変化があった時には連絡帳等で職員間で情報を共有している。 特に新しい薬を服用した時には体調の変化等に注意を払い、変化があった時には医師や看護師に速やかに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食器拭きなど、それぞれの力に合わせた役割で楽しみながら作業ができるよう支援している。 時にはカラオケや散歩・買い物等で気分転換を図っている。 行事などではノンアルコールビールを楽しんでもらうこともある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の重度化が進み、外出することが困難になってきているが、ご本人の希望があればいつでも外出できるよう支援している。 外出行事では近隣のレストランや回転すし店などに出かけている。 お花見には近隣の公園に出かけている。 家族様と外食やお墓参りに出かけられる利用者もおられる。	利用者が重度化する中で外出は困難になりつつありますが、買い物・外出・季節の花見など、外出の機会を作る努力をしています。 玄関の前にベンチを置き、職員も一緒に座り、利用者に天候や季節を感じてもらう時間も大切にしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はお金を所持していないが、少額を所持されている方はおられる。また、お金を持っていることで他者が盗ったと疑うことがある場合は、家族・本人と相談し預かることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話があれば本人に取り次いでいる。本人からの訴え時には希望に沿っている。家族に送る年賀状を書けるようお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから台所の様子が見えたり、利用者と洗濯物を畳んだりすることで生活感を味わっていただいている。トイレの臭いには不快にならないよう配慮し、また、室温や光などにも快適な環境を心掛けている。 リビングの西日対策として、ゴーヤで緑のカーテンを作り、ゴーヤも収穫し美味しくいただいた。	ホーム内は明るく、穏やかな雰囲気です。壁には季節を感じる飾りつけが工夫され、行事の際の写真も掲示されています。リビングには大きなテーブルが置かれ、ソファや椅子の配置にも配慮し、ホーム全体が落ち着いてくつろげる居場所になっています。 リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。 西日対策として、ゴーヤで緑のカーテンを作り、収穫したゴーヤの料理も利用者に喜んでいただきました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの好きな方、音楽の好きな方、エアコンが苦手な方、気の合った方同士の交流など、それぞれの方に合わせた座席の配置を工夫している。 その時の気分で窓際のソファで寛ぐこともできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの家具を持ち込んで頂き、それまでの生活が感じられるような部屋作りに家族の協力を得ながら行っている。 居室には家族の写真や千羽鶴を飾っている方や、亡き夫の写真・過去帳を置き、お花やお菓子、時にはビールを供えている利用者様もおられます。 職員は利用者様が居心地の良い居室で過ごせるよう心を配っている。	居室入口には、手作りの表札が掛けられています。使い慣れたタンス、テーブル、椅子、テレビ、家族の写真等が持ち込まれ、その人らしい居室づくりへの工夫がされています。 亡き夫の写真を置き、水や時にはビールを供えている利用者もいます。 職員は、利用者一人ひとりの過ごし方を尊重し、居心地のよい居室作りを大切にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーになっており、トイレ・浴室等必要箇所には手すりを取り付けられ、転倒予防に配慮している。居室が分かりにくい方の為に大きな表札を付けたり、座席を間違ってしまう方には椅子の色を変えたり、背もたれにカバーをかけたり等の工夫をし、「わかること」を活かせるように支援している。		